

「津波の広域被害把握に向けた新しい展開」を開催しました(2017/11/27)

テーマ：津波工学

場所：仙台国際センター 白樺 1

世界防災フォーラム会期中の 11 月 27 日に、仙台国際センターにおいて、「津波の広域被害把握に向けた新しい展開」と題してセッションを開催しました。本セッションでは、最先端のシミュレーション・センシング・地理空間情報の解析技術を統合して、津波発生直後のきめ細かな災害情報の把握や、長期的な津波リスク評価を通じて、災害に対するレジリエンスの向上に資するという目標のもと、我が国の現状・課題、国際展開に向けた課題を議論しました。当研究所からは、災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野の越村俊一教授と災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野の日野亮太教授が講演を行いました。講演タイトル等は以下のとおりです。4 件の講演を通じて、参加者約 60 名が津波の広域被害把握技術の向上に向けて議論し、課題・展望を共有することができました。

越村 俊一（東北大学），津波の広域被害把握技術の現状と展望

駒田 義誌（内閣府），政府における津波浸水被害推計システムの活用について

日野 亮太（東北大学），地震・津波規模予測の科学

太田 雄策（東北大学），リアルタイム GNSS の活用による震源断層規模即時推定の展望



越村教授



日野教授



会場の様子

文責：越村俊一（災害リスク研究部門）